

お釈迦様最後の旅⑤

令和3年2月第2週放送

---

チュンダへの気遣いを弟子達に語った後、お釈迦さまは弱った身体で再び歩き始めました。

クシナガラに着くと歩く力もなくなり、弟子アーナンダに二本のサーラ樹の間に床を用意するよう頼み、北に頭を向け、右脇を下にして横たわりました。時ならずサーラ樹の花が満開となり、天界の者たちが供養のために花をふりそそぎ、天の楽器を奏で、合唱が起こったといわれています。

それを見てお釈迦さまはアーナンダに、自分を供養するという事はこのような事ではなく、修行僧をはじめすべての信者が教えに従って正しく実践して生きてゆくことなのだと伝えま

す。ものを捧げるだけでは無く、それぞれの正しい生き方が供養となるということです。

そして自分の亡き後はその誕生の場所、おさとりを開かれた場所、はじめて教えを説かれた場所、亡くなった場所が信者の集まる場所となるという事、自分の遺体、遺骨のあつかいについて言い残します。

その後、アーナンダに師である自分が亡くなった後は、説いてきた教えと戒律を師とするように諭します。

アーナンダに説いた後、お釈迦さまは修行僧たちに自分の教えや修行僧の集まりや修行などについて疑問があればたずねるように語ります。亡くなった後になって後悔しないようにと言い、三度告げるのですが、質問は無く、再度促すのですがやはり修行僧たちは黙っています。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

アーナンダはそこで、お釈迦さまの教えや修行僧の集まりや修行などについて一切の疑いが無いという素晴らしいことであると答えます。

お釈迦さまも、安心して、この修行僧すべてが正しい悟りに至ると信じている、と伝えます。

最後に「もろもろの事柄は過ぎ去るものである、怠ること無く修行に励みなさい」と述べる  
と禅 <sup>ぜんじょう</sup>定 に入り、そのままお亡くなりになりました。

こうしてお釈迦さまは八十歳の生涯をとじられたのです。

— 終 —